

片庭市政本格始動

平成23年第1回市議会定例会が3月3日から18日まで、16日間の会期で開かれ、議案28件などを審議しました。いずれも原案どおり可決・採択されました。

議会初日に行われた市長の施政方針と行政報告のあらましは、次のとおりです。

3月定例会

市長施政方針要約

つくばみらい市は、平成18年3月27日に、伊奈町と谷和原村の合併により誕生し、本年5周年という節目を迎えます。私は、

この更なる飛躍に向けた新たなスタートを切るに当たり、平成23年度を私の政策ビジョンである「子どもたちに誇れるまちづくり」のスタートの年と位置付け、市民ニーズに基づく市政のマネジメントと、市民の参加と協働による「信頼と実績の市政」を目指し、全力で推し進める決意であります。

平成23年度予算編成において「子供たちに誇れるまちづくり」、そしてそのための政策の柱を確実に実施すべく、徹底して市税等の収納率の向上など歳入確保を図るとともに、公営企業等の経営の健全性確保、投資的経費の事業効果の点検や事業手法の再検討を進めるなど私の提唱する「無理（ムリ）、無駄（ムダ）、ムラ」を排除した「三ム主義」の徹底を図りました。

「子育て支援事業」と「がん予防対策事業」、さらには将来を展望したまちづくりを推進するための新たな道路・交通体制の調査・整備事業に、重点的かつ積極的に配分しました。

また、私が公約に掲げた市長等の給料削減については、引き続き実施いたします。

さらに、各事業の必要性、有効性、効率性および公共性を総合的に判断するとともに、予算を的確かつ厳しく算定し、可能な限り一般財源の歳出抑制を図る一方で、私の政治姿勢である、常に市民に軸足を置いた市政運営を行うため、市民が健康で笑顔あふれるまちづくりのために

これにより、市民の皆様とお約束した「子供たちに誇れるまちづくり」を、より着実なものにしてまいりたいと考えております。

市民との協働のまちづくりの推進を図るために、昨年10月に始めました「市長への手紙」を継続して実施いたします。

行財政改革を推進し、市民サービスの向上

行財政改革を推進し、市民サービスの向上を図るため「事業仕分け」を実施します。

財政状況が厳しい中、持続可能な行政経営を実施することが重要な課題であることから、当市が実施する事業の必要性や、実施主体のあり方などについて、外部の視点から事業仕分けを行うことにより、スリムで効率的な行政運営を推進します。

とこそが、明日のつくばみらい市をつくる原点と考えております。また、市民懇談会も積極的に実施してまいります。

将来を展望した広域的なまちづくり

併せて、更なる「無理（ムリ）、無駄（ムダ）、ムラ」の三ム主義の徹底を図ります。

将来を展望した広域的なまちづくりを推進するため、谷和原インターチェンジと谷田部インターチェンジ間へのスマートインターチェンジ設置に向け、組織を立ち上げ、調査検討に着手

平成23年第1回定例会で施政方針を述べる片庭市長

